

## 重症心身障害児（者）病棟に勤務して

院内認定重症心身障害児者専門看護師

のぞみA病棟 藤澤 智子



私は看護師として、新生児科病棟・重症心身障害児(者)病棟に勤務し現在十数年になります。その中で様々な疾患・症状の患者さんをみてきました。どの患者さんも自分の持てる力の限り精一杯生きており、日々心が洗われる気持でいっぱいでした。

重症心身障害児（者）病棟に入院している患者さんはほとんどの人が話すことでのコミュニケーションがとても難しいです。私が経験した中で接しているうちに患者さんの笑顔がみられるようになり、とてもうれしく感じた例を挙げたいと思います。

### 【自分がこころを開くことで患者さんも心を開く】

その患者さんは新しく入ってきたスタッフに対し一風変わった接し方をしていました。自分の排泄物を廊下で出したり、わざわざ遠く離れ、手の隙間からこちらを見ていたりというものでした。私には入院生活が長く人と接したいがどう接したらいいのか困っているように見えました。そこでこちらからいつも声をかけ、手を握ったり肩を組んだりと多くのスキンシップをとるように心掛けました。そうした日々が何週間か続いたある日「さん」と声をかけると満面の笑みで返してくれるようになりました。こちらが心を開いて接することで患者さんも心を開いてくれたのだと感じました。

### 【そばにいてだけで落ち着ける】

ある患者さんは、ほかの家族が面会中に自分の家族が来ていない時や、夜中に何のきっかけもなく大きな声を出して騒いでいました。そんな時は一緒にベッドに入り折り紙をしたり、タオルを結んでは解き結んでは解きを繰り返していると患者さんの表情が穏やかになりとても素敵な笑顔を見せてくれるようになったのです。声を出すことで自分は寂しいのだと訴えているように感じそばにいてだけで落ち着けるということが実感できたのでした。

### 【愛情をこめて接すると笑顔でこたえてくれる】

患者さんは、言葉は喋れなくてもこちらから愛情をこめて接しているといつも笑顔で答えてくれます。患者さんの反応はとても素直で正直なものだと感じています。入院生活が長くストレスがたまる生活を送っていることが考えられますので、日々笑顔で過ごせるよう援助できたらと思います。

